



頭が痛い～腰痛が～早く鎮痛剤を飲まなくては・・・
服用後、痛みが治まり、良かった良かった・・・という経験よくありませんか!?
しかし、ちょっとまって下さい!!

痛みは、あなたの身体に送っている「警告信号」なのです。
鎮痛剤はその信号を一時的に止めているだけなのです。

痛みや発熱は、体内で産生されるプロスタグランジンの働きによって生じます。その働きは、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、その痛みの信号を増幅させるのです。

解熱鎮痛薬はプロスタグランジンの産生を抑え、痛みを抑えているのです。

「ならいいじゃないか!」・・・と思わないで下さい!

このプロスタグランジンは、痛みの信号を増幅させる他に、
胃粘膜を守ったり、血管を広げ血流をよくする働きもあわせもっています。

その働きが、抑えられるってことは……………。



痛みと血流の関係性

鎮痛剤を飲み続けていると、血管を拡張できなくなりますから、ますます血流も悪くなります。

そもそも、「**痛み**」の**原因**は**血流障害**です。

鎮痛剤でプロスタグランジンの産生を無理に抑えてしまうと、血管が閉じ、
血流障害はさらに悪化します。知覚が鈍麻(どんま)して痛みがおさまっても、根本原因である血流障害は改善されないままです。

やれやれ、痛みがとれた、と安心して“痛み止め”を飲むのをやめる。すると、体は血流を再開させるために、再びプロスタグランジンを動員して血管を開く。また痛みがぶり返す。

だから、また“痛み止め”を飲む。

これが、「**痛み止まらないスパイラル**」です!!

飲む痛み止めでも、塗ったり貼ったりする痛み止めでも同じことが起こります。



痛み止めが手放せないあなた! **漢方**という手段があります。
ご相談下さい。